

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276600119		
法人名	有限会社 ヤシマ		
事業所名	グループホームハートライフ一宮		
所在地	千葉県長生郡一宮町船頭給230-5		
自己評価作成日	令和4年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://hrt-life.com/guidance.html">http://hrt-life.com/guidance.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和4年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日常生活に重点を置いたホームの運営を目指しており、家庭の延長といったホーム作りを目指しています。</p>
---

法人の理念5ヶ条を基に、「入居者と社員が誇りと喜びを供創できるホームの設立」「人間尊重の精神と高い倫理観を持った企業人であり続けるホーム」の運営方針を掲げ、認知症高齢者の残存能力を最大限に引き出せるような環境作りに心掛けているホームである。コロナ禍で利用者が生まれ育った地域の方々との交流は殆どできないが、季節を感じてもらうため、また、家族等に利用者の元気な姿を見てもらうために、季節ごとに花見や紅葉見物に行ったり、利用者が若い時に一度は行ったことがある大東岬の灯台や長南町の長福寿寺、大多喜城、御宿の月の砂漠等へ行き集合写真を撮っている。認知症である利用者は、それぞれ行ったことは忘れるが、自分たちが映っている写真を見るたびに「本当に行ったんだね」と、昔を思い出しながら話が弾んでいる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ている。 家族の協力を得ながらご本人が生活しやすい環境づくりを行っています。	法人の理念及び運営方針、目的をユニット会議の時や職員皆で集まる機会に、黙読あるいは一人の職員に読んでもらって共有している。入職時のオリエンテーションで理念等を浸透させ、その後は月1回の割合で継続的に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行が続き、昨年に続いてボランティアや近隣保育園の園児たちとの交流等、実施することができなかった。	昨年に引き続きコロナ禍で地域との交流等は殆ど実施できなかった。天気の良い日は一宮川や駅まで散歩して、農産物の売り場を覗いたり、地域の方々と挨拶を交わしている。4月から公民館で健康体操が再開されるので、状況を見ながら参加する予定である。	グループホームを地域の方々により理解してもらうためにも、回覧板を通してパンフレット等を配布することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一宮町主催の福祉フェスティバルへ参加を予定していたが、新型コロナウイルスの蔓延に伴い中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3カ月に1回実施し、サービス向上に活かしている。	コロナ禍で、外部の方々が集まった運営推進会議が出来ず、内部で施設長及びケアマネ、各ユニットの管理者、介護職員が集まり、利用状況や職員状況、運営状況等を報告書として作成し、行政及び区長、民生委員等へ持参し、家族の代表者には送付している。	運営推進会議は年6回以上開催し、内部開催での報告書は、全ての家族に送付することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報の交換・共有を図り、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	役場へは、受給者の医療券更新手続きに行った際に情報交換を行ったり、地域包括では空室状況の相談や情報収集を行っている。役場からは、家賃補助の決定書を持参してくれたり、コロナ関係のアンケートを届けに来たりして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加や社内の勉強会等を行い実践している。	職員全員でインターネット上の介護メディカルサービスを利用して、身体拘束に関する勉強会を実施している。テストを行い、回答率や時間、達成度を把握してユニット会議の前に話し合っている。例えば、椅子に座っているのが耐えられない人には、クッションを挟むとか言葉での抑制を掛けていないか等について話し合う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会や外部の研修等を通じて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した入居者もあり、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に意見や要望を伺っている。面会制限中は介護記録を定期的にお送りし、様子を把握して頂くように努めている。	家族に対して定期的に電話連絡をする際に、面接は何時になったらできるのかとか、利用者を外出させてもらいたい等の質問や要望が出る。利用者からは、座席の位置を変えて欲しい等の要望が出る。帰宅願望のある利用者には、ドライブをしながら家の前に行って写真を撮ったりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議の場において意見を聞く場を設けている。	職員からユニット会議等が出る意見や提案は、利用者に関するものが殆どで、例えば、床ずれ防止の福祉用具を検討して欲しいとの意見に対してエアマットを導入した。また、担当者会議では、介護方法の変更について等の提案が出たりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になる様に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により外部研修への参加が制限されているため、Webによる研修システムを導入し、個々のスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一宮町主催の福祉事業者懇談会も現在開催中止となっているが、個別に他施設との連絡を取り合い情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をし、アセスメントを行い、計画作成担当者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族と話をし、アセスメントを行い、計画作成担当者・ケアマネ中心にサービス内容を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人・ご家族と話し、何を望まれているのかをよく確認した上で、必要であれば他のサービスの紹介も含め行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の動作の中で、出来る事はして頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子観察の中で、必要に応じホーム側より連絡し、来訪の機会作りを促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年度は新型コロナウイルスの影響もあり、電話で交流を摂って頂くように努めている。	家族と電話で話すトーンが上がって、寂しくなる人や穏やかになる人それぞれである。季節を感じてもらうために、季節ごとに花見に行ったり、大東岬の灯台や長南町の長福寿寺に行き集合写真を撮っている。利用者は行ったことは忘れるが、写真を見ると「行ったんだねー」と話が弾んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入る事によって、孤立しない様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会を作り、退居後の様子伺いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や筆談の中で、ご本人の思いを汲み取っている。困難な場合は表情や生活歴等も考え支援できるように努めている。	何気ない会話の中から発する言葉に注意をしている。例えば、「家に帰りたい」という言葉が出て、車でその人の住んでいた家まで一緒に行き、写真を撮ってきたこともある。筆談の中で、軟らかいトイレットペーパーを使いたいという要望があり、家族に購入してもらい届けてもらったことがある。言葉で表すことの難しい人には、その人の行動を見て判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の連絡ノートを作り、職員間での情報の共有を図っている。今までと変わらない生活ができる様に環境づくりを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、様子観察で把握する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族を含めた中でのカンファレンスを行うようにしている。また、必要に応じ、ミニカンファを行っている。	家族から転倒、怪我のないようにという要望がよくある。年々歩行能力が落ちてきて家族も心配されている。対策として、足もとの危ない人には居室内にセンサーをつける、車イス利用に切り替える等ケアプランに組み込んでいく。嚥下がうまくいかなかった、むせ込みが多くなった人には、食事にとろみをつけたり、きざみにしたりと支援内容を変えていくようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に記録を残し、全員が把握出来る様にしている。問題等が起これば、その都度カンファレンスやミニカンファを行い、対応を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族からの要望に対して、別途場を作り対応する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用する機会は少ないが、地域資源の把握はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人に対する医療ニーズをご本人、ご家族と話し合い、納得の上でかかりつけ医を決めていただいている。 また、ご家族やご本人の意向を医師に伝えている。	内科に関しては、主治医と常に連絡が取りやすいよう入居前のかかりつけ医からホームの提携医に切り替えて頂いている。内科以外の精神科、眼科に掛かっている人は、入居前からのかかりつけ医に通院している。現在、各ユニットに週1回の往診で延べ月2回の訪問診療を受けている。その他、週1回の訪問歯科医によるケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は利用出来ていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、面会時に先生や看護師から状況の説明をして頂き、状況の把握を職員全員が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の現在の状況はご家族への電話等で報告しており、必要に応じ今後の方向について話し合いの場を設けている。必要に応じ主治医からもご家族にお話をいただいている。	今年度、看取りは1件あった。重度化してきた場合、家族と話し延命希望であれば、医師に相談の上救急搬送という形も取られる。希望しない場合は、医師の指示を仰ぎながら、ホームでの看取りの準備をすることになる。ホームでできることは医療行為以外となり、排泄が困難になってくるケースが多く、排泄支援を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成を行い、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は未実施となった。	火災機器点検のタイミングで4月と11月に自主訓練という形で火災避難訓練を行った。水害訓練は指定されている避難場所が遠いため、近所の特別養護老人ホームの建物への避難訓練を予定している。BCP(事業継続計画)は昨年作成し、ユニット会議で職員に説明し理解してもらうようにした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や尊厳を大切に声掛けや対応を行っている。	上から目線での話し方、高圧的な態度での接し方は厳に慎むよう日頃から注意している。一人ひとりに対し、「さん」付けで名前を呼び、声掛けをするよう心掛け、本人の存在感を意識した対応をしている。この声掛けが、言葉をうまく表せない人でも反応を示してくれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションのとり方を工夫し、結果を職員の間で情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が全ての希望に添って過ごすまでには、なかなか出来ないが、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んで着て頂いたり、女性は化粧等をされ、楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れる様になっている。 生活リハの中で、食事の準備や後片付けと一緒にして頂いている。 本人の状態にあった形態で提供している。	以前は、その都度食事メニューを考えていたが時間とコストがかかり、現在は1か月分のメニューを最初から作っている。時には、蕎麦が食べたいという要望があり急遽蕎麦にしたこともある。自分たちの希望したメニューとなった時は、利用者の嬉しそうな顔が見受けられる。月1回は行事食を設けるようにしている。因みに2月は恵方巻、3月はチラシ寿司、4月はかしわ餅等季節感を伴う食事の提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量をチェックし、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りや介助の中、食後に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。立位保持が出来る様に、立位練習を行っている。	以前使われていた紙ベースの排泄管理表からタブレット入力に切り替えた結果、医師とのやり取りも効率的となり利用者の健康管理に役立てられている。排泄はできる限り自分の力でやってみようという考えから、手擦りを使った立位訓練に力を入れ脚力の低下を防ぐようにしている。また、便秘予防のためにも根菜を使った料理や、牛乳、ヨーグルト等を食事時に加えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員が体操や体を動かす運動に参加できるようにしている。また、食物繊維の多い食品を献立に取り入れる等、工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は、曜日を決めて入浴を行っており、一人ひとりの希望に添えていない。	入浴は週2日で、午前と午後に分けて行っている。入浴中は利用者とのコミュニケーションを大切に、話しがしやすくなるような雰囲気づくりを心掛けている。例えば、一緒に歌を歌って楽しんでいると、子供の頃の話がよく出てきて職員はそれに相槌を入れ、本人の思い出話を聞いてあげるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見守り、様子観察の中で体調を見て配慮している。必要に応じて主治医にも相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の疾病と薬の内容を把握し、間違いが無いよう、服薬時は準備する時と服薬する時に、必ずチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来ることを把握し、日常生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあるが、敷地内や施設周辺の散歩、ドライブ等をお声掛けして支援している。	雨の日、寒い日以外は毎日といってよいほど、殆どの方が外に出て散歩をしている。車イスの方は、職員の支援のもと外に出るようにしている。時間の長い散歩では、駅の近くまで歩いて行き1時間ほどかけた散歩もある。ドライブで、人の多い時間・場所を避け大東岬灯台、茂原公園、白子の桜まつり、近隣の玉前神社等に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則として行っていない。必要時には、ホーム立替により購入している。購入時は、ご本人と一緒に買い物に行くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手の協力が得られた所には電話の支援もしている。手紙は書いて頂ければお出ししている。ご本人様持ちの携帯電話でご家族と連絡を取っている入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月々や季節で飾りつけを変更し、季節感を味わって頂ける様に工夫している。利用者の相性等も考慮の上、適宜席替えをして和やかな空間になる様にしている。	その月に合ったものを利用者と一緒になって飾り物を作り壁に貼ることで、季節感を味わってもらおうようにしている。快適な居住空間を維持するため、温度、湿度の管理、窓の開閉による換気に注意を払っている。リビング内で適宜席替えをすると、利用者間のいざこざも少なくなり、穏やかな顔に変わってくるようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を設置し、談笑したり一人でゆっくり出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持ってきて頂く様支援し、ご家族との写真を飾ったり、落ち着いた過ごせるように工夫している。	金銭的なもの以外であれば、家族の写真、本、テレビ、ラジオ等自由に持ち込んでもらっている。室内で安全に暮らしてもらうために、転倒しやすい人には室内センサーをつけて転倒防止に気を配ったり、ベッドを布団に代えて転びにくくする工夫をしたりと、家族と相談して取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・わかる事はやって頂き、出来ない事・わからない事は職員がお手伝いして、出来るよう支援している。		